

吉田登山道

吉田登山道は、富士山の北側への登頂に最も人気のあるハイキングルートです。登山者の大半は、富士スバルラインバスで登山道の五合目（標高 2,305m）まで行き、その後山頂に向かって登ります。より人気（ひとけ）は少ないものの歴史的な登山道に興味がある方にオススメなのは、登山道の起点から北口本宮富士浅間神社に延びるこの登山道の下半分です。のどかで緑豊かで、興味深い場所が点在しています。

中の茶屋 - 境界

北口本宮富士浅間神社から 1 時間強歩いたところにある最初の中継地点が中の茶屋です。中の茶屋は、神社と登山の本来の開始地点である馬返し（下記参照）との中間に位置するため、その近くに流れる沢はかつてこの世とあの世とを分ける伝説上の三途の川に例えられていました。

この茶屋では週末になると団子や、「吉田のうどん」という有名なご当地グルメを提供しています。ここには、富士講巡礼者が過去数世紀にわたって建てた立て石が多数あります。これらの多くは、誰かが 33 回目の登頂の達成し、文字通り「先頭を行く者」という意味の先達になったことを記念するものです。先達は、現地の富士講支部から精神的指導者と強力の双方として尊敬されていました。

馬返し - 入山

次の茶屋、大石茶屋は、もう 1 時間登山道を登ったところにあり、レンゲツツジで有名です。その後 30 分歩くと、「馬が引き返してしまう場所」、馬返しです。海拔 1,450m 地点にあり、ここからは富士山の草深い斜面が密林に取って代われ、また傾斜も馬には急峻なものになってしまうのです。馬返しから上は、すべてを手で運ぶ必要がありました。

馬返しの石鳥居の両側には富士山の守護獣のサルの像があります。富士山にはサルが生息していませんが、伝説では富士山が大昔霧の中から世界に姿を表し誕生したのが庚申（かのえさる）の年だったと言われています。庚申の年に富士山に登山することは、特に縁起が良いことだとされており、その年になると巡礼者の多くが富士山に登ります。（次の庚申の年は 2040 年です。）

鳥居のすぐ先には巡礼者が真剣に登山を始める前に俗世間の痕跡を一切残さないように体を清めた、以前「禊所」だった場所があります。この木造建築物は、長年風雨にさらされて老朽化したため約 60 年前に崩壊しましたが、標識がその建物がかつてあった場所を示しています。

その他多数の名所が吉田登山道の低いエリアに沿って存在しています。女性は富士山に登頂する

ことは 1872 年までは正式に許されておらず、遠くから崇拝しなければなりませんでした。二合目 (1,700m) の記念碑が、当時女性が登ることのできた最高地点を標しています。ハイカーは、小室浅間神社が湖畔に遷宮する前に存在していたところを通り過ぎます。このルートは、4 月の後半から 5 月の前半までフジザクラとミツバツツジで彩られます。

馬返しから五合目までの所要時間を合計すると、3～4 時間となります。時間が長くかかってもいいから、もっと簡単にハイキングしたいという方は、五合目までバスに乗り、北口本宮富士浅間神社まで徒歩で下山するという、5～6 時間で行ける快適なルートを選ぶことができます。